



7月

カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

2026年度教会テーマ

ひとつになろう キリストのうちに ~ともに歩む教会へ~
Journeying Together as One Community to Jesus

いつも約束を信じて

御聖体の宣教クララ修道会
シスターカタリナ・パデイジャ

主の平和。

皆様、はじめまして。本年4月1日よりセントロ・ロヨラでの新しい使命をいただき、この教会共同体に加わりました御聖体の宣教クララ修道会のシスターカタリナ・パデイジャと申します。

私はメキシコのハリスコ州で11人の兄弟の7番目として生まれ、信仰深い母の祈りに導かれて育ちました。2010年に御聖体の宣教クララ修道会に入会し、初誓願を立てた後、2013年10月に日本へ派遣されました。

来日後の最初の2年半は、主に日本語の勉強に専

念いたしました。その際、セントロ・ロヨラで奉仕していたシスターマリア・マティルデ・ヌエスに同行する機会があり、子どものためのカテケジスやスペイン語教室をお手伝いしました。その時の経験が深く心に残り、「いつか準備ができたなら、この教会で奉仕したい」と願うようになり、その後、日本語の学びを終える前に、必要があつて長野県飯田市にある修道院へ派遣されました。そこでこの主な使徒職は幼稚園でした。最初は言葉も通じず苦労の連続でしたが、子どもたちの純粋な愛らしさと、先生方や周囲の皆様

の温かさに支えられ、一步一步、日本語での歩みを始めることができませんでした。経験不足や文化の違いという壁にぶつかることもありましたが、聖母マリアが創立者に与えられた「約束」

への信頼が、常に私の支えてきた。毎日、使徒職に出かける前には、いつもその約束を心に留めておりました。

そしてこの春、再び東京へと戻つてまいりました。まだまだ力不足の私ですが、再び皆様とともに歩み、奉仕できることは大きな恵みであり、喜びでいっぱいです。神様は最適な時に、最適な場所で私を用いてくださるのだと実感しております。

皆様の支えをいただきながら、喜びをもって、忠実に、そして心を込めて仕えてまいります。これからの日々が、常に神様のご計画を果たすことに捧げられ、神様の愛に導かれた歩みとなりますように。

日本は創立者である福者マドレ・マリア・イネス・テレサが最も望まれた最初の宣教地であり、ここに派遣されたことを大きな恵みと感じております。

今年、私たちの修道会は創立75周年、および日本宣教75周年の記念の年を迎えました。母なる教会はこの歩みを認め、この一年を「恵みの年」として全免償を与えてくださっています。

最後に、私の歩みを支えるグアダルーへの聖母マリアの尊い約束のお言葉を記します。聖母が、創立者に、誓願の幸せな日に仰せられたことを、この修道会に属している一人ひとりの娘にも仰せられるでしょう。

「もし神が、ご計画によつて、使徒職のためにあなたを呼びたければ、私がいつもあなたと共に行き、あなたの口に人々の心を納得させる言葉を置き、そして、彼らに必要な恵みを与えることを約束します。その上御子の功徳のために、あなたと何らかの関係のある人々に、霊的な面においても、聖性と最後まで堅忍する恵みを与える約束をします」

教会報 MAGIS 7月号

† 2026年度 年次報告会	P2~4
† 教会施設「修繕・保全報告」	P4
† 教会行事	P5
† (教会活動連絡会便り) 教会奉仕連絡会	P6
† Family of St. Ignatius ~ベトナム共同体から~	P7
† リビングロザリー報告	P8

【7月の共同祈願】

7月31日に記念日を迎える

この教会の守護聖人

ロヨラの聖イグナチオに倣います。

わたしたちが信仰の火を燃やし続け、

神さまの声をよく聞き分けて、

行動することができますように。

教皇レオ十四世 初の回勅『マニフィカ・ウマニタス』を公布

AI(人工知能)が急速に広がる時代にあつて、人は「神の似姿」として尊い存在であることを思い起こすよう教皇は招いておられます。技術が弱い立場の人を傷つけたり、戦争や不正を深める道具とならないよう「武装解除された AI」を求め、すべての決定は良心と責任に根ざすべきだと語られました。

また、誰も取り残さない共通善のために協力し「愛の文明」を築くよう呼びかけられ、互いに傾聴し希望をもって未来をともに形づくるよう招いておられます。

2026年5月25日パチカン・シノドスホール記者会見にて

(パチカンニュースより)

2026年度 年次活動報告会

6月14日(日)10時ミサ終了後、ヨセフホールにて、2026年度年次報告会が対面とYouTube配信の併用で開かれました。最初に高祖敏明主任司祭のお話、助任司祭からのお話があり、2025年度の活動報告と財務報告、2026年度の活動計画発表が行われました。

高祖主任司祭のお話

2025年の聖年は過ぎ去りましたが、「希望の巡礼者」の旅は続きます。この1年はシノドス(世界代表司教会議第16回(通常総会)の呼び掛けに応じて、私たちの教会の10年後を展望したビジョンとパストラル・プラン(司牧計画)づくりに着手しました。10年後の2036年は、聖イグナチオ教会の前身である麹町・幼きイエスのテレジア教会が献堂式を祝つてから100周年となります。この100周年を迎えるとき、私たちの教会はどのような姿であつてほしいか。その青写真をつくるため、昨年、「麹町教会100周年計画策定準備委員会」が設置され、私たちの教会が「どこから来たのか」「どこにいるのか」「聖霊はどこに導こう

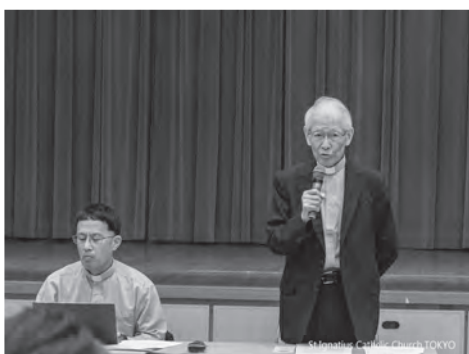
としているのか」についてとにも祈り、意見を交わしてきました。

シノドスの『最終文書』*は、聖霊のうちに生きておられる主イエス・キリストの導きを、教会共同体が協力し合つて識別し、「すべての人とともに歩みキリストの光を輝かせることのできる教会にするための、霊的刷新と構造改革の道」(28項)を歩むように促しています。準備委員会は報告書をまとめ、今年4月に設置された「100周年プラン策定委員会」へとバトンをつなぎました。委員会の理念は、今年の教会テーマと同じで、「ひとつになろう キリストのうちに」とともに歩む教会へです。

AIの導入などによる時代と環境の変化も加味し、当教会の国際的な特徴をよりよくいかすために言葉

と国籍の違いを越えて教会構成員がイエスにつながり、心をつなぐこと、そして聖イグナチオ教会内にとどまらず、世界と日本のすべての人と「ともに歩む」教会をめざして聖霊の導く未来を識別すること、そのために希望をもって巡礼の旅を続けていきたいと思ひます。

皆さま、一緒に10年後を展望しながら「聖霊が主役」の司牧計画づくりに努めてまいりましょう。ご提案やご協力による「同行」をよろしくお願ひします。



助任司祭のお話

サトルニノ・オチョア神父

今から12年、私は100歳となります。12年という

のは、遠くでも近くでもなくちようどいい。想像できま

12年後に見据えられるのは「高齢化」です。これは悪いことではありません。元気なおじいちゃん、さらに元気なおばあちゃん、になります。一方で子どもは、減っているだけではなく忙しく、教会に来て遊ぶ時間がありません。司祭は少なくなっています。司祭は召し出しがありますが、祈れば召し出しがあるという考えは十分ではなく、創造的な考え方を持たなければなりません。司祭の時代から信徒の時代へ、止められない流れです。

その中で、定年退職者が増えます。時間があつて、若い時にできなかったことを教会のためにしたいという思いがあります。教会にはまだ十分な受け皿がありませんが、信徒の役割と信徒の責任を求め、この人たちが教会のために働くことができますように。

聖イグナチオ教会はすでに国際的で、アジアのカトリック教会の中のひとつの大きなセンターであり、さらに大きなセンターになるに違

*『シノドス流の教会-交わり、参加、宣教 <シノドス最終文書>』

いありません。多様性に富む共同体は、難しい面も持ち合わせています。7つの言語が使われていますが、それぞれの共通点が少ないので増やさないといけません。また、観光している人たちの教会にもなっています。国内・海外からの旅行者がこの教会で歓迎される時、それは素晴らしいものになります。多様性をなくしてはいけません。多様性の中で的一致です。信仰において、共同体によって、一致を願います。



ボニー・ジェームス神父

聖イグナチオ教会には、いろいろな文化、背景から人々が集っています。まずお互いを知り、そこで信頼感を作るためには、イベントを

一緒に計画して実施し、ともに働くことが大事だと思います。

毎年10月の「教会祭」で、多様な言語の信徒が集まって、企画から実施まで協力し合っています。若者のための場としては、7月に聖イグナチオ・デ・ロヨラの祝日に合わせて行う「イグナチアンユースデー」があります。教会のさまざまな言語グループの若者たちが一緒に集まってプログラムを作り、お祝いをしています。

さらに今年からは、いろいろな教会学校が集まる「ファミリデー」を計画しています。子どもたちが交流できるよう、少なくともミサを一緒にできるよう、準備を進めています。若いうちにお互いを知り、分かれ、信頼関係ができると、大人になっても一緒に動くことができるとなると思います。

「カトリック」という言葉

には「普遍的」「すべてを巻き込む」という本来の意味があります。いろいろな人たちがいて、多様性がある、カトリック教会ということになります。聖イグナチオ教会は、それを再現している教会で

す。多様な文化、言語、背景を持つ人たちが集まってくるのは美しいことですが、挑戦でもありません。挑戦を乗り越え、いつもミサの中で祈る「聖霊による一致」のためには、聖霊の導きがさらに必要です。100周年に向けて準備をしていく中で、教会がひとつになって活動できるようにお互いが協力できたらと願っています。

柴田潔神父

典礼を中心に、教会全体がうまく動くように仕事をしています。しかしながら、5月に7時ミサで献金箱が荒らされそうになり、数日後の10時ミサでのことがあり、以後、7時ミサでできるだけ見守りをして、防犯対策を立てても、全部はやり切れず、限界を感じます。

そうした時、霊操が力になります。カルロ・マリア・マルティーニ枢機卿が、弱さに直面した時の勧めを覚えていました。一つ目は、自分の弱さを素直に受け入れること。2つ目は、弱さは神の力が現われる場であると認識すること。復活のイエスさまの栄光が現われます。3つ目

に、自分の弱さや教会の限界の中に謙虚に祈り、生き抜いていく方法を編み出していきます。この3つを大切にしたいと思っています。

学校や幼稚園から講演などを依頼される時、「聖イグナチオ教会」「イエズス会」への信頼、期待があります。期待を外さないように、できればそれを上回るようにしたい。よい評判の積み重ねが「また教会に來たい」「話を聞きたい」、そして「洗礼を受けたい」となれば、と願います。

聖イグナチオ教会は、立地条件など恵まれた環境にあります。一方で、誰でも来られるという難しさもあります。この環境をいかした。より魅力ある聖イグナチオ教会になるよう、ご協力をお願いします。

2025年度活動報告

2025年聖年には、当教会にも多くの方々を訪れました。いろいろな教会へも出かけ、温かく迎えられました。

教会学校について、時代の

流れもあり、これまでの土曜学校、日曜学校という枠組みから、新たに「小学生会」が発足しました。

10月に行われた「教会祭」は、その前年に行われた「献堂25周年記念」のミサの流れを受けて、当教会の特色のひとつである、いろいろな国籍の方と交わりを持ちました。まだ完璧な形ではありませんが、今後につなごうと思っています。

私たちの教会にある活動グループのまとめりである「連絡会」づくりをさらに進め、そのことによってよい点があったのではないかと考えています。

ローマでの2025年聖年「青年の祝祭」に9名の若者を当教会から派遣することができました。2027年にはワールドユースデーが韓国で行われますので、多くの若者を派遣できればと願っています。

「一つの体、多くの部分」(1コリ12)。活動グループも、国籍が違う人たちも、私たちはみな部分です。これをまとめていって、イエスさまとともに歩む体になれるよう、よろしく願います。

2026年度活動計画

私たちの教会における、国籍、言語、背景の多様性こそが、神さまが与えてくださった豊かなお恵みです。互いの違いを越え、キリストを頭とするひとつの共同体として、より深く結ばれていきたいと願っています。

私たちの歩みにとって、まずこの教会が「安全で安心して祈ることができる場所」でなければなりません。しかし、残念なことに最近、不測の事態が相次いで発生しました。その中には、子どもたちの目の前で起こった事案もあり、大変遺憾に思うと同時に、深く受け止める課題であると痛感し、教会の安全について改めて考える機会となりました。

教会は誰に対しても開かれた場所であり続けなければなりません。しかし同時に、信徒の皆さま、特に子どもたちが安心して通い、祈り、ミサにあずかることができる環境を守ることも大切な責務です。現在、防犯対策として、見守り体制の確立

や退避マニュアルの整備を進めています。私たち信徒として大切なのは、誰かに任せきりにするのではなく、「私たちの教会は自分たちで守る」という意識を共有することだと思っています。一人ひとりが周囲に温かい目を配り、気になることがあれば声をかけ合う、そのような日頃の見守りの積み重ねも大切にしていきたいと考えています。防災チームでも、大規模災害発生時についての検討を進めています。

「教会学校ファミリーデー」では、各言語圏の教会学校の子どもたちとその家族が、「同じキリストの家族」と肌で感じ、違いを越えてつながる喜びを感じてもらいたいと思っています。そして、子どもたちの交流は、大人たちのコミュニケーションもつないでくれると信じています。この試みが毎年続く大切な企画となり、教会全体のつながりがより豊かになるものと期待しています。

2025年度財務報告

収入は前年比で増加しま

した。教会の収入は、①教会維持費(月定献金)②ミサ聖祭献金③結婚式、葬儀の際の儀式献金④その他の献金です。教会維持費は、ほぼ前年並となりましたが、コロナ禍以降減少し、以前の水準には戻っていません。ミサ献金は、外国語圏の方の献金が増え、増加しています。儀式献金は結婚式、葬儀とも減少しています。その他の献金では、大口の個人献金がありました。

支出の合計は、前年比で増加しました。物価高の影響に加え、教会施設の修繕費用が増えています。収入から支出を引いた金額から、聖堂新改築準備金などに積み立てを行っています。

教会の活動は、皆さまからの教会維持費の納入と献金によって支えられています。今年度も支出が増加することが見込まれています。一方収入は、大口の個人献金を除くとほぼ前年並となっております。毎年、お願いで恐縮ですが、できるだけ効率的な活動に努めていただくとともに、教会維持費の納入へのご協力を、よろしくお願いします。

教会行事

5月中に行われた行事をご紹介します。

● 堅信式

5月31日(日)主聖堂にて、10時ミサの中で行われました。106名の受堅者とその代父母、一般会衆も多勢参加してお祝いしました。司式のアンドレア・レンボ補佐司教は日本語と英語で説教をされました。

「人間は神にこの上なく大切にされている存在です。この神の愛と人間の尊厳と言うテーマは、私たちにあって身近なテーマで、現代社会において立ち止まって考えるべき特別な意味を持っています。すなわち人工知能(AI)の出現によって私たちは今、人間の尊厳について改めて考えるよう促されているからです。

AIは学び、分析、社会を形作る一つの技術であり、人間に与えられた知性と豊かさを示しています。しかし、教皇レオ十四世が最初の回勅『マニフィカ・ウマニタス』で述べるように、現在

最も深刻なのは人間存在の危機です。危険なのは機械が人間に取って代わることではなく、人間が自ら機械のように考え始めることなのです。AIは理論的な思考を得意としていますが、苦しみ、ゆるし、愛の意味を理解することはできません。情報が増えるとも知恵が伴わなければ人間性はもろくなりません。

だからこそ、今日皆さんが受ける堅信の秘跡は重要だと思えます。皆さんが受けるのは人工的な知能ではなく、生ける神の霊です。聖霊は人間の知性を清め、真理へと導きます。キリスト教において、知識と知恵は異なり、知識は何ができるかを

示しますが、知恵は何をすべきかを教えています。そして知恵は神への畏敬へと導きます。私たちは神の似姿として創造され、一人ひとりがかけがえのない尊厳を持っています。堅信志願者の皆さん、どうかAIに魅了される世界にあっても黙想することを学び、情報に振り回されず、変わることはない真理を求めてください」

堅信式の後、11時半からヨセフホールにてレンボ司教をお迎えして、立食形式で受堅者お祝い会が開かれました。聖歌隊とともに「希望の巡礼者」を歌った後、和やかな雰囲気の中で司教との記念撮影の場も設けられ、最後に全員で「ごらんよ空の鳥」を歌い、盛会のうちに開きになりました。

堅信式に臨まれた方々から、以下の感想をいただきました。

* 聖霊とともに

聖霊の風に包まれた本日、主の慈しみのうちに無事に堅信式を終えることができました。アンドレア・レンボ司教様の司式による堅

信式では、灯された七色のろうそくと香油の香りに聖霊を感じ、大きな喜びに満たされました。見守ってくださった神父様、シスター、代母や皆様に心から感謝しております。「道 真理 命」である主イエス様から愛の霊をいただいて、これからは人々に神の愛を告げ知らせる使命を果たせませうよう歩んで参ります。(O・K)

* ともに信仰を深める

受堅に向けた講座参加など準備過程を通じ、自分自身を見つめ直すことができてきました。特に、この機会に初めてゆるしの秘跡を受けられることができて、今まで問題だと思っていたことの根源が実際にはどこにあったのか改めて深く理解することができました。また、代父様はじめ日曜講座で一緒に過ごさせていたでいてる皆さまから助言を頂き安心して準備でき、信徒同士のつながりの大切さを実感いたしました。引き続き、信仰を深めて参りたいと思います。(T・K)

* 堅信式を終えて

堅信の勉強会を通して、

自分の信仰について改めて考えることができました。カトリックの教えを学び直す中で、今までよく分かっていなかったことが少しずつ理解できるようになり、信仰に対する気持ちも前より深まったと思います。また、自分がどのように信仰と向き合ってきたのかを振り返るよいきっかけになりました。今回の学びをこれからの生活の中で大切にしながら、信者として前向きに歩んでいくことが楽しみです。(中学生 K・M)

* 神さまとのつながり

私は幼児洗礼を受けたため、堅信を受けるまではカトリックについてよく知っていませんでした。しかし、堅信を受け、より深く神さまを理解することができました。授業で正しい知識を身につけ、ゆるしの秘跡で心を改めることができたため、今後は堅信を受けて信仰を深めた信仰者として、神さまとのつながりを大切にして日常生活を過ごそうと思います。(高校生 C・T)

教会活動連絡会便り

当教会の各連絡会から、活動状況の報告や構成するグループからのお知らせなどをお伝えいたします。

教会奉仕連絡会

献堂記念大掃除のご報告

2026年6月6日(土)、現聖堂の献堂の記念日に、教会への感謝をこめて教会大掃除が行われました。この教会に関わる、国籍も年代もさまざまな170余名の方々がボランティアとして参加されました。

日々集い祈る各聖堂、学びや活動の場である信徒会館、そしてクリプタや外回り、扉や窓のガラスも、一人ひとりの手で、隅々まで丁寧に清掃されました。業者の方々は雨の季節を前に、中庭周りの水路の清掃をしてくださいました。

お友だち同士で、また小さいお子さんを連れて、一緒に仲よく楽しそうにお掃除される様子もあちこちで見られました。一方で、初めてお会いする方々と一緒に働

だき、この日の「ともに働くことの喜び」に、感謝を捧げました。

私たちの「我が家」を守る

2024年に現聖堂献堂25周年をお祝いしました。これに前後して、経年による施設各所の故障や劣化のメンテナンスが実施・計画されています。これからも長く維持していくためには、なるべく早い手当が欠かせません。今後、私たちはこの「我が家」の施設をさらにいたわって、大事に使っていくことを意識したいと思います。

教会大掃除は、2016年に、「献堂記念大掃除」と改称しました。年に一度、感謝を清掃という形でお捧げできる日としてふさわしい名称だと思えます。

日常的には、クリーンアップグループが主聖堂・マリヤ聖堂・ザビエル聖堂・クリプタ、信徒会館階段・廊下、各所トイレなどの清掃。手芸部は香部屋、植栽グループが花壇や屋外、活け花グループが各聖堂の祭壇周り、洗濯グループは洗濯室、挙式奉仕部はマリヤ聖堂の整美などを行っています。そ

の他の施設や、丁寧な手入れや補助が必要な部分などは、業者の方々に支えられています。

誰でも教会施設の

整美・維持に貢献できる

奉仕に参加したいけれど、今は時間がなくて・・・という方がいらっしゃいます。そこで、誰でもいつでもできること、お願いしたいことをお知らせします。

***ミサにあずかるだけで精一杯という方にもできること**：聖堂に設置されている祈りの本など、ミサのお帰りの時に、ご自分がお使いになつたものをきれいに揃えて置いていただけただけで、聖堂は整然と見えます。そして、忘れ物をなくしましょう。多いのはプリント類やペットボ

トルです。濡れた傘の雨水は石の床に染みを作りますので、傘袋の使用方法や傘の置き方には注意をお願いします。

***聖堂清掃は基本的に決まった時間に行っています。**聖堂は祈りの場ですので、その妨げにならないよう、個人でのご奉仕はどうぞお控えください。
***さまざまな活動で信徒会館をお使いになる方**：備品を正しく丁寧に扱います。また、時に応じて掃き拭き清掃もご検討ください。(用具の場所はお知らせします)
***ゴミの始末**：たくさんの方がお越しになる日曜日の教会のゴミ処理は大きな課題です。無造作に捨てていませんか。できるだけ個人のゴミは持ち帰るよう、ご協力をお願いします。教会で出るゴミは「事業ゴミ」として、廃棄に高額なお金を支払っています。教会の財政を軽減するためにも持ち帰りにご協力ください。

皆さま一人ひとりのささやかな行いを通して、きれいな教会維持のためにともにご奉仕して参りましょう。



Family of St. Ignatius

～ベトナム共同体から～

ベトナム人カトリック共同体の最近の活動

今年前半、グエン・タン・ニャー神父が海外に滞在されている間、ベトナム人カトリック共同体は、シスター・ディン・グエン・ゴック・トゥエンの献身的な協力により、グエン・ヴァン・テー神父の司牧のもとにありました。聖週間を通じて、典礼のほとんどが日本語で行われたにもかかわらず、多くのベトナム人信徒が熱心に参列しました。復活前夜祭と復活主日のミサは上智大学の講堂で執り行われ、各地から多くの信徒が集まりました。日本国内でベトナム語によるミサの機会が限られている中、この機会はコミュニティーにとって特別な恵みとなっています。

す。神の摂理と教区の支援により、信徒たちは毎週母国語でミサに参加することができています。

3月9日、子ども向け教理講座が新学期を迎え、60名の生徒が、求道者クラス、初告解・初聖体準備クラス、堅信準備クラスに分かれて学び始めました。授業は毎月第1、第3、第5日曜日に開催されます。

4月には、23名の求道者が洗礼の秘跡を受け、7組のカップルが結婚の秘跡を祝いました。

5月23日、ベトナム共同体はマリアの祝典を主催し、他の教区グループとともにリビンググローザリーで祈りを捧げました。

司祭、そしてすべての皆様の絶え間ないご支援に対し、心より感謝申し上げます。

●宣教司牧評議会からのお知らせ●
(6月4日開催)

- ・5月31日(日)106名が堅信の秘跡に与りました。ミサ後のお祝い会では、アンドレア・レンボ補佐司教様との歓談の時間が設けられ、受堅者や代父母にとって貴重な機会となりました。
- ・活動連絡会議において互選により、本年度活連幹事4名が選出されました。よろしく願いいたします。
- ・主聖堂に85インチのモニターが新しく導入されます。これまで使用していたモニターは可動式キャストに乗せ、各所で利用できるようになります。
- ・防犯対策について、教会に来る人の自由を妨げない形での安全策を試行錯誤しながら考えて参ります。

●司祭移動のお知らせ●

2025年4月から協力司祭として司牧をされていたジェリー・クスmano神父は、健康上の理由から「イエズス会口ヨラハウス」(練馬区上石神井)へ6月10日に移動されました。

皆さま、クスmano神父の健康のためにお祈りください。

●お知らせ●

安心してミサに参加していただくため、内陣(聖体奉仕者の座席)にて緑の腕章をつけた担当者が見守ることになりました。

皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

7月の典礼と行事

1 (水)	福者ペトロ岐部と 187殉教者の記念日	『社会問題とカトリック教会の考え 2026年度連続セミナー』 18:30 ヨセフホール 2026 環境と貧しい人々「見よ、それはきわめてよかった」総合的な(インテグラル)エコロジーへの招き 「ともにいきるために行動する」 講師：鈴木和枝氏 (不二聖心女子学院教員)
3 (金)	初金曜日	オルガンと祈り 19:00
4 (土)		2025年度合同追悼ミサ 10:00 主聖堂
5 (日)	年間第14主日	ミサがわかるセミナー 年間テーマ「神とともに歩む教会ーともにささげるミサ」 今回テーマ「開祭」 講師：宮越俊光氏 13:00 ヨセフホール
8 (水)		傾聴ルーム 11:15～15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00ミサ後
12 (日)	年間第15主日	子どもとともにささげるミサ 10:00 教会案内ツアー ①10:30 ②11:00 受付 9:30～ 日曜サロン・ミニオリエンテーション(受け皿) 11:00～12:30 ヨセフホール
15 (水)		クリプタに安置され7月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 『社会問題とカトリック教会の考え 2026年度連続セミナー』 18:30 ヨセフホール 2026 環境と貧しい人々「見よ、それはきわめてよかった」総合的な(インテグラル)エコロジーへの招き 「まとめと展望」 講師：梶山義夫神父(イエズス会社会司牧センター所長)
18 (土)		新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座 15:00 ヨセフホール
19 (日)	年間第16主日	幼児洗礼式(第1回) 10:00 ミサ
22 (水)		聖イグナチオの取り次ぎを願う9日間の祈り(7月30日まで) 傾聴ルーム 11:15～15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
26 (日)	年間第17主日	ロヨラの聖イグナチオの記念ミサ 日曜サロン・ミニオリエンテーション(受け皿) 11:00～12:30 ヨセフホール 教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール インターナショナル イグナチアンユースデー
31 (金)	ロヨラの聖イグナチオの記念日	

*『マジス』8月9月合併号は8月2日(日)発行予定です。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

●リビングロザリー報告●



5月24日(日)に芝生で、世界平和のためのリビングロザリーが行われました。当教会の各言語グループ(英語・ベトナム語・スペイン語・日本語ほか)の子どもたち・若者たち・若い親子たちなどがリードして、ともに祈りをささげました。



主任司祭：高祖 敏明
 助任司祭：ボニー・ジェームス
 グエン・タン・ニャー
 サトルニノ・オチョア
 柴田 潔
 協力司祭：ハビエル・ガラルダ
 グエン・ヴァン・テー
 関根 悦雄
 マヌエル・シルゴ
 作道 宗三
 神学生：アントニオ・マリオ・ダ・
 コスタ・ソアレス
 シスター：フロール・フロレセ
 ジェスリン・ブエンディア
 デイン・グエン・ゴック・
 トウエン
 カタリナ・パディージャ

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間

【平日】主聖堂
7:00/12:00/18:00
 【土、日曜日】主聖堂
土曜 18:00/19:30 (ベトナム語)
日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00 (英語) /13:30 (スペイン語) /
15:00 (ベトナム語)
 【土曜日】マリア聖堂
17:30 (英語)
 【月の第1日曜日】マリア聖堂
13:30 (ポルトガル語) /16:00 (ポーランド語)
 【月の第2・4日曜日】マリア聖堂
16:30 (インドネシア語) 『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

カトリック麹町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102 - 0083
 千代田区麹町 6 - 5 - 1
 TEL 03 - 3263 - 4584
 FAX 03 - 3263 - 4585
<http://www.ignatius.gr.jp>



Linktree (リンクツリー)



音訳 Magis